

堆肥の生産・販売に関するQ&A

Q:	戻し堆肥を水分・比重調整資材として使用した堆肥は塩類濃度(EC)が高いとの理由で耕種農家から嫌われます。どうしたらよいでしょう。
A:	<p>塩類を塩(しお)と勘違いしている耕種農家もありますが、塩類とは硝酸塩、硫酸塩等の無機塩類を意味し、堆肥に含まれる無機塩類のほとんどが窒素、リン酸、カリ、苦土等の肥料成分であることは前号のQ&Aでお答えしました。</p> <p>戻し堆肥を水分・比重調整資材として使用した堆肥は畜ふん以外のものが何も含まれない畜ふんだけの堆肥ですから、オガ屑やモミ殻で薄められた堆肥より塩類濃度(EC)が2~3倍ほど高くなっていることは事実です。</p> <p>戻し堆肥方式は堆肥を繰り返し戻すため塩類が無限に濃くなると誤解されがちですが、畜ふんに含まれていた塩類が堆肥中に残るだけです。それ以上の濃度になるはずがありません。</p> <p>塩類とは肥料成分のことですから、畜ふんだけの堆肥はオガ屑混合堆肥と比べて2~3倍の肥料成分と2~3倍の畜ふん由来の有機物を含む価値の高い堆肥なのです。1/3量の施用で同じ効果を発揮するのですから、お徳用な堆肥です。オガ屑混合堆肥と同じ施用量では2~3倍の肥料成分を施用したことになるので、その分だけ化成肥料を節約できることとなります。</p> <p>畜ふんだけの堆肥の価値に気づかずに、オガ屑混合堆肥と同量施用してしまったり、化成肥料を節約しない耕種農家の農地に塩類集積が見られたことが戻し堆肥方式の(畜ふんだけの)堆肥を嫌う原因になっていますが、堆肥施用量を減らしたり、化成肥料を減らすことにより塩類集積を防ぐことができることを説明し、耕種農家の誤解を解いてあげてください。また、オガ屑などを使用していない畜ふんだけの堆肥を好む耕種農家が多いことも説明してください。</p>